

滋賀県日野町 | 未来対話ワークショップ

「居場所」を切り口に オモロい日野を考える ～それぞれができることをもちよう～

参加者の声から描く、これからのまち



トレンド分析ボード + 未来マインドマップ 記録より

2026.07

はじめに

このスライドについて

日野町「未来対話ワークショップ」で作られた3枚の模造紙の記録を整理しました。
参加者が付箋に書いた“未来に起こりうること”を、テーマごとにまとめています。

● 読み方

- 推測で補わず、読めた言葉のみ記載
- 個人が特定される署名は伏せています
- “起こりうること”は予測であり事実ではありません

● 確度マーク

- ◎ 確信をもって判読
- ○ ほぼ判読（1～2字は推定）
- △ 半分程度、文意は推定
- ※ローデータのみで、この資料ではマークは使用していません

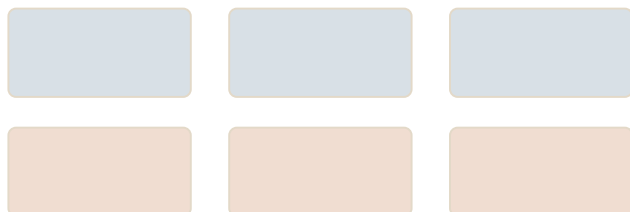
● もくじ

- ワークショップの枠組み……P3
- 3つのトレンド（各地域／団体・個人）……P4
- 未来マインドマップ……P14
- 参加者アンケート結果……P16

ふたつの思考ツールで「未来」を描いた

1 トренд分析ボード

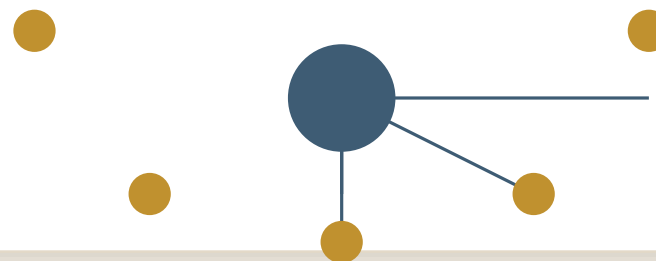
- 3つのトレンドを軸に
- 「地域」と「団体・個人」の2つの層で
- “起こりうること”を付箋で洗い出す
- A面・B面の2グループで実施



地域／団体・個人 × ①②③

2 未来マインドマップ

- 中央に「居場所と地域の未来」を置き
- 放射状に連想を広げる
- トренд分析より自由で発散的
- キーワード・アイデア・予測が混在



未来を動かす、3つのトレンド



居場所へのニーズの 高まりと多様化

「場」は増える。でも、本当に届いているか

乱立への問い / 家庭 / 多様化



人口減少と 様々なほころび

担い手が減り、地域の土台が揺らぐ

担い手 / 自治・地縁 / 空き家



学びと教育の あり方の問い直し

多様化するほど、格差と迷いも生まれる

多様化 / 体験格差 / AI

1

TREND 01

居場所へのニーズの 高まりと多様化

「居場所を増やす」ことは、本当に解決なのか。

「居場所」が増える先に、見えるもの

● “増やす” ことへの問い直し

- 居場所の乱立、いいのか悪いのか
- 本来の居場所「家庭」の置き去り
- つくること自体の目的化
- 人が集まらない場ばかり増える

● つながりの逆説

- 薄れるからこそ、求められる
- 相談できる場所がなくなる
- 増えるほど孤独を感じる人も
- つながる価値を知らぬまま大人に

● 多様化・外部化

- 家族の多様化・二拠点生活
- フリースクールの広がり
- 空き家・空き教室の活用
- 担い手の高齢化・団体の疲弊

担い手として動く、その先の葛藤

● 担い手として動く

- やりたいことでコミュニティ
- 学校の中に居場所／教室を地域へ
- 地域の見守り・親の居場所にも
- 地域おこし協力隊の導入支援

● 外国につながる住民

- 気軽に行ける居場所づくり
- 日本語・外国語を学び合う場
- 誰が担い、どう役割を分けるか

● 懸念・ジレンマ

- 家庭とのトレードオフ
- 特定思想の団体による勧誘
- 二極化：参加できる人と孤立する人
- 町内の情報共有が難しくなる

2

TREND 02

人口減少と 様々なほころび

担い手が一人に集中し、地域の仕組みが軋む。

自治・つながり・文化が、静かにほどける

● 自治・地縁の機能不全

- 字単位の集まりが消える
- 役が同じ人ばかりに
- 消防団・民生委員が担えない区
- 自治会が機能しなくなる

● 財政・インフラ

- 企業誘致の税増 ⇔ 人口減の税減
- インフラの悪化
- 食品・住居の費用が増す

● つながり・見守りの喪失

- 顔の見える関係が減る
- 孤独死が増える
- 集落の消滅危機

● 空き家・災害・外国人

- 空き家の激増
- 水害の激甚化・避難所運営
- 外国人コミュニティと分断
- 祭り・伝統の継承困難

「私で5役」——負担は、一人に集まる

5軒

20年後、集落に残る世帯

● 担い手不足の実感

- 農業人口の更なる減少
- 人手不足で運営できない
- 教員・支援員のなり手不足

5役

一人が担う、地域の役割

● 暮らし・意識の変化

- 幸福度に注目が集まる
- 気づけばAIとしか話していない
- 地域をオモシロイと思えない

● 前向きな動き

- 夜の居場所の充実
- 多世代での共有・共同利用
- 助け合いシステムの構築（社協）

3

TREND 03

学びと教育の あり方の問い直し

多様化するほど、格差と迷いも生まれる。

学びは広がり、同時に迷い始める

● 多様化と迷走

- 答えは一つじゃない教育へ
- 少数派の意見はどれ程届くか
- 地域より塾になる

● 境界の変化

- 家庭と地域の枠があいまいに
- 地域を語れる人がいなくなる
- 近くに学ぶ場がなくなる

● AIの両義性

- AI先生の授業
- 良い方向への活用 ⇄ とりこぼし
- 地域での活用に期待

● 格差・機会の懸念

- 体験不足のまま居続ける
- 「学校の付加価値とは何か」
- 公民館の負担増・担い手不在

「好きを育て、得意を伸ばす」へ

● 教育観の転換

- 好き・得意を伸ばす教育へ
- 教え方・方法を変える
- 個別化 → 孤独の助長（ジレンマ）

● つなぎ役の必要

- 個に応えるコーディネーター
- 地域人材の学校教育への参画
- 親も子と一緒に地域に入る

● PTA・保護者

- PTA解散という選択
- 「やりたい」を応援するPTAへ
- 情報源をどう選ぶか

● 体験のコスト

- 体験のコンテンツ化＝格差・商業化
- 学校との連携の重要性UP
- 提供する側の人材育成が必要

「居場所」の、具体的なアイデア

中央に「居場所と地域の未来」を置き、自由な発想で描かれたアイデア。

● tenbanka 構想

- ミニ道の駅
- ミニ公民館
- ミニ社協として各地に展開

● 世代別の居場所

- 高齢者の居場所／大人の居場所
- 若者の居場所（ミニプロ）
- 子どもの居場所

● 場の機能

- 食べる・遊ぶ・学ぶ
- 子ども食堂の増設
- キッチンカー（子ども食堂カー）

● ひらかれた場

- インクルーシブな居場所
- 公民館のコミュニティセンター化

放射状に広がった、キーワード群

● 地域・つながり

- 関係人口を広げる
- 人と人、広く深く
- コンヴィヴィアリティ（自立共生）
- 個人主義 → コミュニティ衰退

● 人口・世帯・多様化

- 高齢者・単身者の増加
- 共働き・単身世帯の増加
- ジェンダー・働き方・食・言語の多様化
- 外国人住民との共生

● 学び・教育の再編

- 公教育の再編
- 教育 → 体験 → スキルの格差
- 2027 新学習指導要領・well-being
- 不登校の数は右上がり

● 技術・防災・その他

- AIの急速な普及と向き合い方
- 防災意識・かつてない災害予測
- 獣害・空き家の増加

満足度と、生まれたつながり

3.7 / 5

満足度（平均） 「満足」 4～5 が 68%

4.0 / 5

つながりの実感（平均） 実感あり 4～5 が 77%

特に印象に残ったワーク（複数選択・n=22）

「起こりうる未来」を探索

11

これからの立ち位置・役割を検討

11

「創りたい未来」を描く（レゴ）

10

これまでの軌跡を振り返る（年表）

5

参加者の声

「異なる強みを持つ人同士の“掛け算”は、マンパワーとは比にならない」——参加者の声

● よかったこと

- 普段出会えない人と、顔の見えるつながり
- 自分にない専門的な視点に気づけた
- 立ち止まって“未来”を考えられた

● これから連携したいこと

- 教育 × キャリア教育
- 「てんばんか」等の事業に関わりたい
- 人権・多文化共生の視点で一緒に
- 「応援隊がたくさんできた」

● 運営への改善提案

- 全体をもう少し短く（長丁場だった）
- ゴール共有・役割分担・落とし所を
- 事前に各活動の情報共有を
- 多分野の参加とシャッフルを

● 役場・社協・むすびえへ

- 社協と、現在の居場所の可視化を
- 教育の課題を行政にどう反映するか
- “増やす”より、卒業できる循環を（問題提起）